

GREEN RADAR

平成28年度のスタートにあたって

重点事業方針 A-Policy

- ・組合員の健康維持と地域のくらしと健康を側面から支持 ～配置家庭薬の紹介～

レポート A-Reports

- ・27年度ブドウ販売高100億円突破
～「ぶどう産業新時代に向けての推進大会」を開催～
- ・来場者に信州農産物・加工品を試飲・試食でPR
～「第10回」Aグループ国産農畜産物商談会に参加～
- ・移転オープン見学会を開催
～『JA虹のホール松代』の移転建設工事竣工～

Vol.443
APRIL 2016

4



信州力の新CM放映開始



光と風と水のハーモニー

JA全農長野

平成28年度のスタートにあたって

全農長野県本部 県本部長 高木幸一郎

各地で花の便りを聞く季節となり、28年度がスタートしました。全農長野県本部では、28年度総勢404名による新体制が整いましたが、大きな転換期、新しい発想でのスタートダッシュと成果が求められています。

27年度は、エルニーニョの影響で全国的に不順な天候が続き、長野県においても、度重なる降雹、夏場の集中豪雨など自然災害が発生し農作物に大きな被害がありました。しかし、組合員の皆様の努力と系統結集の成果により、全農長野県本部取扱高は計画を上回る2,800億円余となりました。これは、JA長野県の総合力の強さの証でもあります。

政府はTPP協定の締結に向けて、TPP協定の承認案と国内対策の実施に必要な関連11法の改正法案を国会に提出しました。国の

TPPによる影響試算は、「農産物価格が下落しても差額補填により影響は少ない」としていますが、国内対策は価格補填を約束したものでなく、また、TPPの影響は単年度で終わるものでもありません。関税収入が見込めず財政が破綻している国のどこに財源を求めていくのか、しかも、7年後にはもう一段の譲歩が義務付けられているとなれば、影響は更に深刻です。

TPP交渉の合意内容が国内農業や国民の生活に与える影響を精査するとともに、農業者の不安を払拭するための影響分析の十分な説明が必要ですが、情報開示が極一部に留まっている中で、国会での審議が国民生活や農家目線での論戦ができるのか注目されます。改正農協法が4月より施行されましたが、中期3ヶ年計画実践の

可否が、組織の盛衰に直結するという危機感、そして、農業と地域づくりの原点になることを組合員・JAと共有しなければなりません。自己改革では「何を」、「いつまでに」、「どういう手法で」、「どこまで達成するか」、自己改革の工程管理が求められます。組合員のニーズの吸い上げと徹底した論議、法改正や環境変化に伴う経営リスクの分析と目標管理が欠かせません。

今、農業、農協は大きな転換期にあります。強い持続できる志を一人ひとりが持たなければ変化の波に飲み込まれてしまう激流です。一方で変化は体質改善のチャンスでもあります。「成熟化に負けない」、「超える発想」、「大きく広げる革新」の志を持ち、県域だけでなく組合員とJAとともに今より前に進むための改革と挑戦が必要

です。

地域づくりはどの時代においても普遍的な課題であり、農協はその運動の歴史が証明するように、地域にしっかりと根を下ろし食と農業と地域とくらしを守ってきました。

「協同組合人は未来の歴史を描く創業者になれ」と言われます。全農長野県本部は経営環境の変化を冷静にとらえ、将来あるべきビジョンに向け、取り組んで行くことを皆さんと確認し、ご挨拶とします。

平成28年4月1日

県本部長 高木幸一郎



27年度ブドウ販売高100億円突破 「ぶどう産業新時代に向けての推進大会」を開催

全農長野県本部果実課は、27年度ブドウ販売高が平成15年度以来12年ぶりに100億円を超えたことを受け、2月9日(火)、JA長野県ビルで「ぶどう産業新時代に向けての推進大会」を開催しました。大会には県、JA、主要卸売会社などの関係者72人が参加し、今後の県産ブドウの展望と一層の振興について意見交換をしました。

今年度のブドウ販売高は前年比8%増の104億円余で、種無し巨峰、ナガノパール、シャインマスカットの3品種で69%のウェイトを占めています。消費者ニーズの高い「種無し」に対応し、中でも種無しで皮ごと食べられるシャインマスカットやナガノパールが好調な販売を牽引しました。

長野県のブドウ産業は、昭和50年頃より巨峰を中心に着実に伸び、平成6年に152億円余の販売高を達成しました。一方、品種多様化に向け欧州系品種の拡大と施設化の推進に取り組みましたが、栽培上の課題や消費地での

品種の定着に苦戦し、豪雪被害や消費増税などの要因も重なり、近年は取扱量・金額とも低迷していました。このため、平成16年度より第2次「長野県ぶどうバラエティー化」を推進し、巨峰偏重の品種構成からの脱却、消費者ニーズ・マーケットインに基づく「種無し化」へ舵を切りました。この結果、平成23年度の取扱高73億円余から27年度は104億688万3千円(1月末時点)を達成しました。

推進大会でのパネルディスカッションでは「シャインマスカットは全国で増産しながらも取引単価が上がっている。産地間競争も激しいが、長野県産は品質面で評価が高い。シャインパール」とならないように、県内一体で品質統一・向上をお願いしたい(東京青果(株)高橋輝夫調査役)、「当社では取り扱うブドウのうち15%が輸出で、このうちシャインマスカットは約3割(62t)。求められる商品をしつかりと作っていただきたい」(大果大阪青果

(株)上田勝幸副部長、「今年もシャインマスカットを販売したところ、高単価にもかかわらず予想以上の販売が出来た。今後はクリスマス・お歳暮・正月需要、台湾・香港の春節用商材として輸出も期待でき、シャインマスカットが冬場の売場構成を変えたと言える。品質の産地間格差が広がるだろうが、更なるブランド化に努めていただきたい」(長野県連合青果(株)大和嘉伸部長)と、シャインマスカット人気は当面続くと見通しました。ナガノパールについても「市場でのニーズは高い。栽培リスクは承知しているが、生産を減らさないで欲しい」「シャインマスカットとのセット販売をしたい」など期待の声が上がりました。

ブドウの好調な販売で農家所得が増え、産地が明るくなっています。果実課では今後、ピーク時の150億円を目指し産地化に取り組みます。

▼果実課



パネルディスカッションでは県産ブドウの今後の進むべき道と求められる産地対応について討論

生活課
〔長野県クミアイ家庭薬協議会〕

組合員の健康維持と 地域のくらしと健康を 側面から支持

～配置家庭薬の紹介～

1. 事業の基本的な考え方

急速に進行する高齢化社会や過疎化により、買物弱者の増加やライフライン確保の不安といった問題が顕在化するなど地域組合員の活力が損なわれています。

一方、国の医療費が40兆円（国民1人当たり31万4千円）を突破するなかで、これまで以上に「セルフメディケーション（自己健康管理）」が重要視されています。

こうした状況の中で全農長野県本部生活課・長野県クミアイ家庭薬協議会は「組合員の健康を維持し、地域のくらしと健康を側面から支援すること」を基本に、「医薬品、医療機器の品質、有効性及び安全性の確保に関する法律」（旧改正薬事法平成26年11月改正）をはじめとしたコンプライアンスの遵守と、配置員

に対する資質の向上等を図りながら事業の効率的な展開を進めています。

2. 家庭薬配置販売のしくみ

わが国における配置販売業の歴史は古く、江戸時代から始まる富山の置き薬がその始まりです。

配置員が消費者の家庭や企業を訪問し、医薬品の入った配置箱を配置し、次回の訪問時に使用した分の代金を精算し、集金するしくみ（先払い後利）です。配置員が配置した薬は、一般的に「置き薬」と呼ばれており、系統の配置家庭薬事業もこの方式を基本としています。

3. 長野県農協における配置家庭薬事業の歴史

昭和26年3月、当時の全購連では戦前から行われていた家庭薬事業の

再開をはかることとし、その方策として「配置販売業の方式」を取り入れ、取扱品目を一元化し、協同薬品工業（株）製造のクミアイ家庭薬のみにしぼることとした。

同年4月、全購連の事業方針に従い、長野県経済連をはじめ、岩手、秋田、山形、庄内、福島、新潟、群馬等の県連がこの事業に着手することとなりました。

以来、本県では60年余に亘り事業が続けられ、最盛期の昭和63年には配置戸数15万3千戸、正組合員に対する配置率は75%となり、回収金額も平成5年には11億9千200万円に達しました。

※別表

4. 事業の概況

現在、県下には約95,000戸の配置先があり、これは正組合員戸数160,554戸に対して60%の配置率となっており、配置先から高い支持を得ています。この配置先を

53名の配置員（東・南・中・北信の4支部体制）が1人当たり1,500戸から2,000戸を受け持ち、およそ4カ月に1回の巡回を行っています。

しかし、平成12～13年頃より配置先組合員の高齢化・独居化やドラッグストアの乱立、さらには規制緩和による医薬部外品の一般小売店での

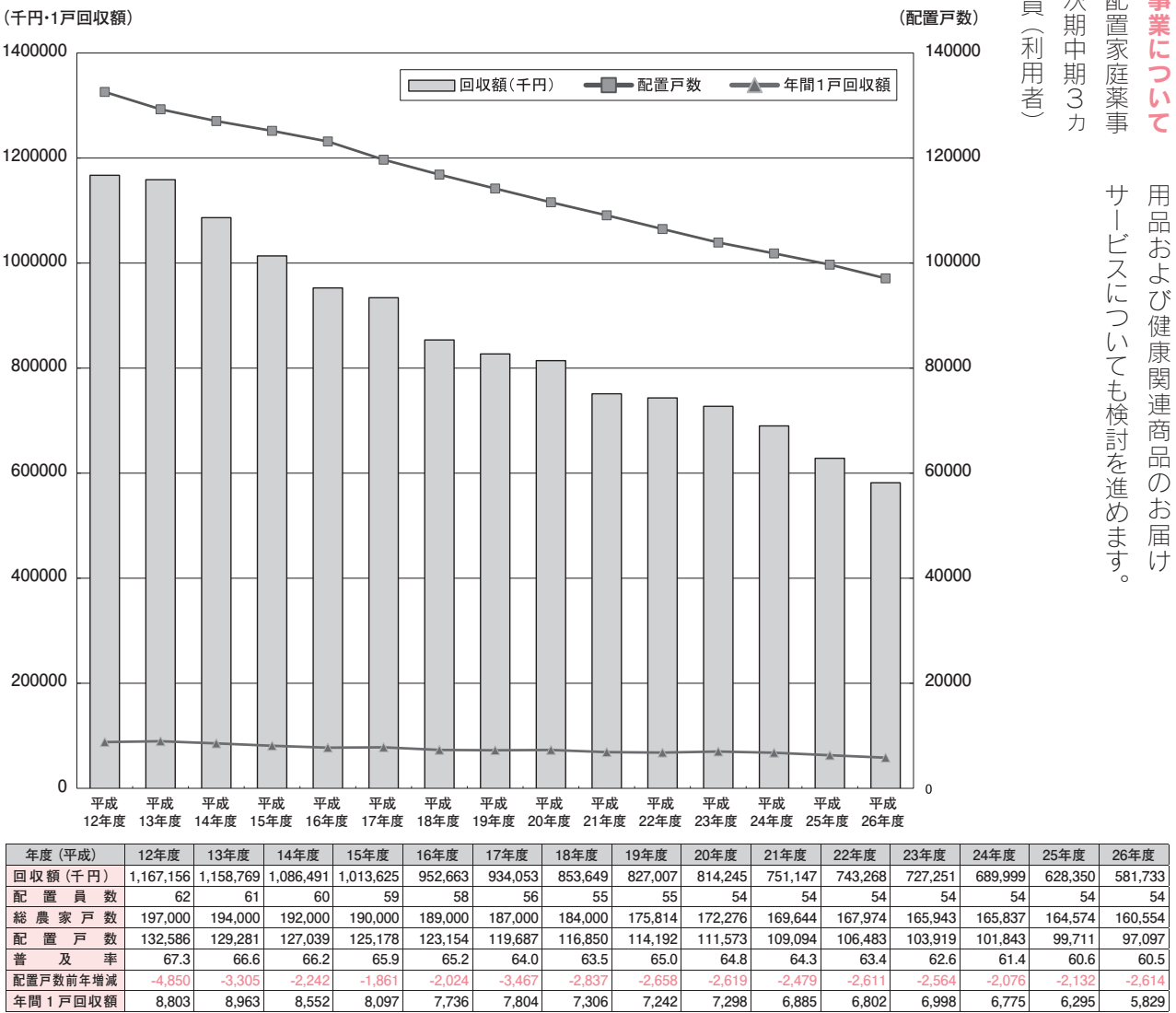
販売認可（平成16年）や一般用医薬品のインターネット販売の認可（平成26年）等により、配置家庭薬事業を取り巻く環境は年々厳しさを増しています。

配置先の1巡回当たりの回収金額は2,439円となっており、1戸当たりの年間回収金額は5,829円となっています。平成26年度の回収（事業）実績は5億8,200万円と事業計画の6億6,000万円に対して計画比88%、前年実績6億2,800万円に対して前年比93%にとどまりました。因みに使用配置薬の代金支払方法は、現金が48%・口座扱いが52%となっています。

事業拡大策並びにクミアイ家庭薬の配置先サービス向上策として、①新規配置戸数拡大キャンペーン②巡回戸数拡大運動③セールスアップコンクール④春夏・秋冬マッチレース⑤上期・下期特別推進⑥ご利用感謝キャンペーン⑦得々キャンペーン⑧ビタパッション試飲強化キャンペーン⑨配置員グループ計画達成コンテストなどの運動やキャンペーンを積極的に実施しています。

5. 今後の配置家庭薬事業について
今後の本県における配置家庭薬事業のあり方について、次期中期3カ年計画の中では、組合員（利用者）の健康維持管理のサポートをする「健康増進事業」としての配置家庭薬の普及推進体制を強化することを謳っています。
そのために、JAとの連携強化による新規配置戸数の拡大策の実施や、既存配置先に対する各種サービスのレベルの向上、新たな世代への配置家庭薬の拡大を目指したPRの実施、更には中山間地の高齢者を対象としたライフラインとして、介護関連

※別表 長野県「配置家庭薬」実績推移表



来場者に信州農産物・加工品を試飲・試食でPR

「第10回JAグループ国産農畜産物商談会」に参加



このイベントは、全国のJAを中心に、地元の農畜産物を小売業・流通業・加工業者などにPRし、全国的な販路拡大につなげることを目的として毎年開催しています。JA長野県グループでは、全農長野県本部、JA上伊那、JAみなみ信州、JA須高(株)フルーツファームすこつ、JA中野市、JA北信州みゆき、長野興農(株)、森食品工業(株)が出展しました。

毎年参加しているJA担当者からは「昨年からは好評であった商品は今年も引き合いが強かった。今後は原料供給先も検討しつつ、商品企画の提案をしていきたい」「訪問者のリストアップを行い、今後情報交換を進めていきたい」などの声が聞かれました。今年初めて参加したJAからは「商談会への場慣れが必要で、商品の見せ方、試食提供の方法に改良の余地がある。今後はPRの強化を図りたい」「供給側が販売側と直接商談することで、スムーズに商談が進むと感じた」と話していました。

この商談会には173の出展者が参加し、2日間で3,767人の関係者が訪れ、会場は連日多くの人で賑わいました。

▼JA長野県営農センター・生産販売部



地域の訪問介をサポート

「JA長野厚生連に福祉車両を寄贈」

全農長野県本部は訪問介護に役立ててもらったため、JA長野厚生連に福祉車両5台を寄贈しました。福祉車両の寄贈は8年連続で、寄贈台数は今回を含めて66台となりました。

当県本部の高木幸一郎本部長は、3月14日(月)に長野市のJA長野県ビルで行われた贈呈式で、「高齢化が進む中、在宅介護の重要性は増えています。山間地域もあり使い勝手の良い四輪駆動車を介護や医療の現場で有効活用して下さい」と挨拶をしました。JA長野厚生連の内堀茂理事長は「今後在宅医療・福祉の重要性は一層高まり、訪問介護の守備範囲は広がります。地域医療の現場では欠かせない足として、大事に使わせていただきます」とお礼の言葉を述べられました。

今回寄贈した車両は、新町病院に2台、北アルプス医療センターあづみ病院、篠ノ井病院、下伊那厚生病院に1台ずつ配備され、訪問介護に役立てられます。



訪問看護に役立てられる贈呈車



ゴールデンキーを持つ内堀理事長と高木本部長ら

移転オープン見学会を開催

「JA虹のホール松代」の移転建設工事竣工

9月より進めていたJAグリーン長野松代地区斎場「JA虹のホール松代」の移転建設工事が竣工し、3月5日(土)・6日(日)に移転オープン見学会を開催しました。

見学会には、2日間で718組・約1,200名と、大変多くの方にご来場を頂きました。また、セレモニー会員には新たに59組の入会を頂き、新しいホールとJAの葬祭事業に対する期待の高さがうかがえました。

新たなホールは、通夜施設や小規模の葬儀にも対応した法事室などを備え、利



【JA虹のホール松代】
住所:長野市松代町西寺尾1356 電話番号:026-278-8644

- 【施設紹介】
- ①通夜施設
全室バリアフリー。リビングは床暖房・空気清浄器・テレビ・システムキッチン完備。浴室にはジェットバス・打たせ湯を完備。
 - ②葬儀式場
最大100名まで収容可能。充実した音響設備と可動式スクリーンを設置。
 - ③法事室
法事・会食・小規模の葬儀に対応。
 - ④会食会場
最大100名まで収容可能。また、仕切りにより40名までの少人数にも対応可能。

ホワイトデーには花束のお返しを

「信州フラワーウォークを実施」

長野県産アルストロメリアとカーネーションで作った花束を持つて歩いてもらおうというイベント「信州フラワーウォーク」が3月14日(月)に行われました。

これは、全農長野県本部、JA上伊那、南信ハウスカーネーション組合などが主催となり、長野県の協力を得ながら、ホワイトデーや転勤、退職、卒業など花を贈ることが多い3月に、長野県産切花をPRしようと企画され、今年で5年目の開催となります。アルストロメリアはJA上伊那、カーネーションは南信ハウスカーネーション組合が提供し、生産者とJAの皆さんが花束を制作。JA長野県ビルと長野県庁での予約販売で、約500束の注文がありました。

開催にあたり、JA上伊那の御子柴茂樹組合長と南信ハウスカーネーション組合の福沢一郎組合長、上条正明副組合長が長野県の中島理恵副知事を表敬訪問しました。JA上伊那の御子柴組合長は「長野県というと果樹と野菜というイメージで、花き生産が盛んなことはあまり知られていません。県からも情報発信をお願いします」と協力を求めました。中島副

知事は「花は心を和ませ、幸せな気持ちにさせます。『しあわせ信州』実現のためにも花の普及をすすめたいと思います」と応えました。

JAビルでは南信ハウスカーネーション組合の福沢組合長が当県本部の小林哲男副本部長に花束を贈呈し、「このような活動が広がり、花き消費が伸びればありがたい」と話すと、小林副本部長は「花を贈る習慣が国内に定着するといい。今日の帰り道は花束を持つて、歩いて帰ります」と応えました。次年度以降についても、この時期の消費が定着するよう取り組みを継続することが確認されています。



小林副本部長に花束を贈呈する南信ハウスカーネーション組合青年部の太田和宏代表



中島副知事に花束を贈呈したJA上伊那と南信ハウスカーネーション組合の代表ら

都内で長野県産農産物をPR

「ふるさとの食につばんの食」に出展」

JA長野県農産物PR協議会は3月12日(土)13日(日)の2日間、東京・渋谷の代々木公園で開催された「ふるさとの食につばんの食 全国フェスティバル」に出展し、リンゴ、きのこ、加工品を試食販売しました。

サンふじとシナノゴールドの試食は「この時期にこんなにおいしいリンゴを買えるなんて思わなかった」「リンゴは毎日食べるので、何個あっても足りない」と5個、10個と購入するお客様が多くいました。きのこは、えのきたけ、ぶなしめじ、エリンギ、大粒なめこ、山菜茸を販売しました。きのこは冷凍保存ができることをご存知のお客様や「冷蔵庫にいつも入っている」という声を聞くことができました。

2日目に行われたきのこ汁のチャリティー販売(限定200食)は開始前から長い列ができ、長野県産きのこのおいしさを味わっていただきました。

当協議会は消費者の皆さんに長野県産農産物の味を紹介しながら産地を身近に感じてもらい、消費拡大につながる活動に取り組みます。



チャリティー販売のきのこ汁を受け取る来場者



長野県産品を買い求める来場者が絶えませんでした

平成28年度 機構・要員・分掌について

I. 基本的な考え方

1. 中期事業ビジョン(平成28～30年度)並びに中期事業計画(平成28～30年度)に基づき、JA・県域および子会社と統一した戦略のもと、効率的一体的事業運営体制をつつじた県本部機能の発揮により、農業所得の増大と地域の活性化に取組む機構・分掌とする。

2. 営農指導、生産(生産販売、生産購買、畜産酪農)事業においては、長野県農業の生産基盤強化とブランド確立、営業力強化による顧客確保、仕入れ強化・生産流通コスト削減による生産者手取りの最大化を目指す体制を構築する。生活事業においては、事業分野の選択と集中による競争力強化をはかり、ライフラインの充実を目指す体制を構築する。

3. 県本部グループのガバナンス体制・コンプライアンス態勢の再構築、県本部総合経営管理制の堅持により、部門別事業競争力強化と経営基盤の確立をはかり、県域結集の拡大と成果を得る県本部の運営を行なう。4. 事業・経営環境の変化に対応する業務体制を確立し、専門的業務の継続性および事業の効率性の維持強化をはかり、要員は多様な雇用形態による効率的な体制とする。なお継続雇用制度導入に伴う再雇用職員は、キャリアを踏まえた配置を行なうものとする。

II. 機構・分掌・要員の主な変更内容

1. JA長野県営農センター

(1) 中心的担い手のニーズを把握する体制整備

と相談・事業対応の強化をはかるため、同センター内に担い手対応専任チームを設置し、中心的担い手対応のコントロール機能を果たすとともに、JAとの同行訪問や直接アプローチ等を行なう。これにあわせ、担い手支援体制を明確にするため、「農業経営管理・担い手支援グループ」を「担い手支援グループ」に名称変更を行なう。

(2) 花き生産振興業務については、総合的な営農指導に係わる業務を除き、野菜花き課に新設する「花きグループ」に移管する。

2. 生産販売部

(1) 大規模生産者等共販対策推進、集出荷施設共同利用等の計画策定、輸出事業強化、買取販売方式検討、総合宣伝強化、その他総合的な園芸事業強化および部の統括を行なうため、新たに「生産販売企画課」を設置する。

(2) 営農センターで実施する花き振興業務の一部を野菜花き課へ移管し、生産振興から販売までの一貫した業務体制とする。あわせて、花き生産振興強化のため、同課内に「花きグループ」を設置し「グループ長」を配置する。

3. 生活部

(1) 生活課の宅配・共同購入・店舗品目は、組織購買および物流において関連する事業が多いことから、柔軟で総合的な対応を可能にするため、「まごころ宅配センター」を生活課内の分掌体制とする。これに伴い、「まごころ宅配センター松本駐在」は、「生活課松本駐在」に改称する。

人事異動

全農長野県本部(平成28年3月4日付)

〈部長級〉

▽業務点検・コンプライアンス部

▽総合企画部長 (北信事業所長)宇都宮正喜

▽JA長野県営農センター生産振興グループ

▽生活部長 (南信事業所長)沖村俊彦

▽東信事業所長 (総合企画部長)佐藤正彦

▽南信事業所長(生産販売部副部長)武井浩三

▽北信事業所長(生産販売部副部長)小林寛久

▽生産販売部付 (東信事業所長)三石則孝

▽同部付 (管理部付)倉沢俊朗

▽生活部付 (生活部長)内田正俊

〈副部長級〉

▽管理部副部長兼総務広報課長

(同部総務広報課長)山田展靖

▽生産販売部副部長兼生産販売企画課長

(同部副部長兼果実課長)片桐雅樹

▽同部副部長兼きのこ課長

(同部副部長兼営業課長)竹内 聡

▽畜産酪農部副部長兼酪農課長

(同部酪農課長)西澤孝典

▽東信事業所次長兼野辺山駐在所長

(同事業所野辺山駐在所長)岩崎直樹

▽中信事業所次長兼生活課長

(同事業所生活課長)和田 敏

▽生産販売部付(生産購買部副部長)永井俊幸

▽畜産酪農部付(総合企画部企画課)滝沢英俊

▽同部付(出向先変更) (同部付)依田秀樹

〈課長級〉

▽管理部人事課長

(名古屋販売事務所次長)小林正明

▽生産販売部米穀課長

(東信事業所生産販売課長)長谷川孝治

▽同部果実課長

(南信事業所生産販売課長)竜野 竜

▽同部営業課長

(同部きのこ課長代理)井出光俊

▽生産購買部農業機械課長

(同部農業機械課長代理)宮澤秀実

▽生活部生活課長 (同部付)依田 稔

▽東信事業所生産販売課長

(東京販売事務所次長)古村智之

▽南信事業所生産販売課長

(JA長野県営農センター営農企画グループ長代理) 那須裕史

▽東京販売事務所次長

(東信事業所生産販売課長代理)北原秀樹

▽名古屋販売事務所次長

(生産販売部野菜花き課野菜種苗センター長) 豊森俊行

▽管理部付 (管理部経理課長代理)竹内範満

4月の動き▶

生産販売部 畜産酪農部	4月8日(金)～ 4月10日(日)	御柱祭下社山出し「ふるさと ブース」「おもてなし交流パ ーク」出店 観覧席と下諏訪駅で県産農畜 産物をPRします。
きのこ課	4月23日(土)～ 4月24日(日)	ナガノきのこ大祭2016 長野市ビッグハット 「きのこゆるキャラぬりえコン テスト」や会場内の『びっく りきのこ』を探して写真を撮っ て賞品をGETする「びっくり きのこ探し・撮り」など楽し いイベントが盛り沢山です。
畜産課	4月7日(木)	4月期長野県中央家畜市場 長野県中央家畜市場
酪農課	実施中～ 5月20日(金)	農協牛乳&ハケ岳牛乳 「祝・御柱祭キャンペーン」 牛乳パックについている応募 券4枚一口で応募すると、信州 プレミアム牛肉などが当たる キャンペーンです。

2017年度
新採用職員
募集

明日の食と農を
支えるチカラ
募集します。

応募方法など詳細が決まり次第ホームページ等でお知らせいたします。
<http://www.nn.zennoh.or.jp/>

信州 JA全農長野

光と風と水のハーモニー
お問い合わせ先
管理部門事務課 浦野・神山(こうやま)
〒380-8614 長野市大字南長野北石堂町1177番地3
TEL026-236-2160 E-mail nn-jinji@nn.zennoh.or.jp

信州 JA全農長野

ながのゲンキ
みらい☆ミカタ
JA全農長野

表紙は、生産販売部 総合宣伝の取組みとして制作した、当県本部農産物PRキャラクター「信州力」(シンシュウリキ)の新CMで、3月末より長野県内で放映中です。総合宣伝の取組みについての詳細は、本誌2015年10月号(vol.437)をご覧ください。

4月のテレビ・ラジオ番組表▶

放送日時	放送局	番組名	放送内容(予定)
4/5(火) 16:10	SBCラジオ	情報わんさかGO!GO!ワイドらじ☆カン内「ミルクマガジン」	牛乳料理について (1級フードアナリスト中島麻希さん出演)
4/12(火) 16:10	SBCラジオ	情報わんさかGO!GO!ワイドらじ☆カン内「ミルクマガジン」	御柱祭イベント出展の様子
4/19(火) 16:10	SBCラジオ	情報わんさかGO!GO!ワイドらじ☆カン内「ミルクマガジン」	ブラック&ホワイトショーの様子
4/26(火) 16:10	SBCラジオ	情報わんさかGO!GO!ワイドらじ☆カン内「ミルクマガジン」	牛乳クイズ

編集後記

この時期は決まって、別れと出合いの季節です。私達の職場も人事異動がありますし、定年退職する先輩方、そして新しく仲間となる新採用職員の面々が加わる・・・というように、周囲に変化が起きます。読者の皆様の中でもご本人はもちろん、家族や身内の方々が新入学や進級、就職などを迎え、これまでと違った環境に身を置くことになり、いろんな意味で期待と不安が入り混じっている方が大勢いらっしゃると思います。そんな不安を乗り越えるためには、何と言っても睡眠と食事！おいしい信州産農畜産物をたくさん食べて、乗り切りましょう!!新年度も全農長野県本部、役職員一丸となって頑張ります。よろしく願います。

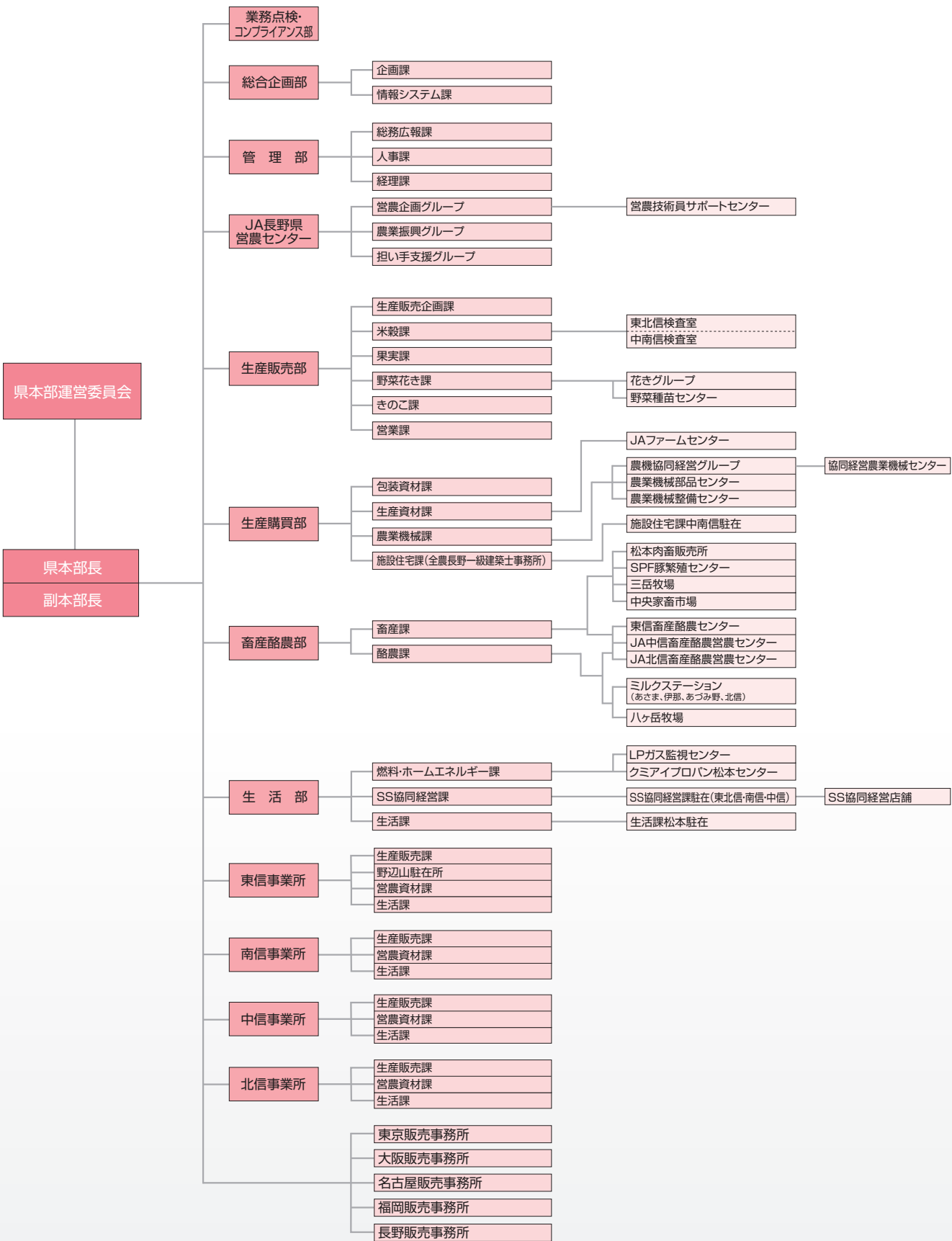
(Y)

JA全農長野の事業現況▶

平成27年度2月末部門別実績表 (単位:百万円,%)				
部門	区分	実績	計画比	前年比
米	穀	16,140	103	95
果	実	35,648	110	106
野菜花き		72,431	119	111
野菜種苗センター		194	103	101
きのこ		20,775	94	99
営業		13,856	97	104
生産販売部計		159,045	109	106
包装資材		8,655	95	103
生産資材		12,604	103	104
農業機械		6,398	104	114
施設住宅		4,344	123	136
生産購買部計		32,000	103	109
畜産		12,230	116	106
三岳牧場		273	120	114
SPF繁殖センター		246	96	96
酪農		17,058	104	104
ハケ岳牧場		247	91	101
畜産酪農部計		30,054	109	105
燃料・ホームエネルギー		21,806	89	77
SS協同経営		9,398	98	87
生活		12,061	97	94
生活部計		43,266	93	83
長野県本部計		264,364	105	91
参考(A・コープを除く)		264,364	105	102

(内部販売高含む)

平成28年度 全農長野県本部機構図



小平奈緒は、 「信州」を食べて 育ちました。

スピードスケート
小平奈緒 選手
所属:相澤病院(松本市)



グリーンリーダー4月号(毎月発行) 2016年3月20日発行 第443号
発行/ JA全農長野 長野市大字南長野北石堂町1177番地3 発行人/高木幸一郎 印刷/PO印刷株式会社 長野市青木島3丁目3番地3



光と風と水のハーモニー

JA全農長野



JA全農長野ホームページ <http://www.nn.zennoh.or.jp>
インターネットで産地直送「JAタウン」 <http://www.ja-town.com>

